No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
1	全般	全般	外部評価で出された意見は総合計画策定に生きてくるのだろうか。例えば「生きがいづくり」が課題だとの認識があるものの具体的な事業としては出てきていない。そういった評価結果に対し、反省すべき点は反省していただき今後の施策に取り込んでいっていただきたい。	- A	評価を踏まえて今の取り組みを見直し、新しい計画に反映させていく。これまでは意見をいただいても対応策までは示せていなかった。今後はどのように対応するかまで示していかないといけないと考えている。 ↓ 外部評価を踏まえたものとする。	修正	(全体的に見直し)
2	全般	全般	成果指標を言葉で入れているところがあるが、外部評価も視野に入れ、なるべく数字で設定してほしい。	- A	再度検討する。 ↓ 下記は原案通り 〔健康づくり 基本事業①〕⇒「延伸」のまま変更しない。 健康寿命が何歳までになればよいという具体的な数値を目標値として示すことが難しいため。 〔障がい者支援 基本事業②〕⇒「増加」のまま変更しない。 障がい福祉サービス利用者数については今後も増加していくことを想定しているが、令和6年度における具体的な数値目標については、今後策定する障がい者福祉計画や障がい福祉計画における検証、検討を経て設定されるので、現時点において具体的数値目標を示す根拠がないため。 〔高齢者支援 基本事業①〕⇒「上昇」のまま変更しない〔高齢者支援 基本事業①〕⇒「上昇」のまま変更しない〔高齢者支援 基本事業④〕⇒「増加」のまま変更しない2025年には、後期高齢者人口の高齢者人口に占める割合が6ポイント上昇すると推計される。要介護認定率が一気に上昇する後期高齢者が増加する中で、具体的な数値で目標値を示すことは難しいため。	修正	(全体的に見直し)
3	全般	全般	個別指標で設定されている事業が基本事業に位置 づけるだけのウェイトをもっているのかわからな い。(例えば健康マイレージ)また、アンケート 調査の結果で設定している事業もあるが、アン ケートの結果は感覚的な部分もあるので、実数的 なものを指標とすることもありではないか。適切 さを再度検討してほしい。	- A	基本事業に事務事業をいくつか設定し、そこでも指標を設定する。 事務事業で具体的な指標を設定すると、基本事業は理念的な指標になってしまう。再度検討する。 ↓ 個別指標の見直しを行い、[健康づくり 基本事業③]と[子育で・少子化対策 基本事業①]は対応なお、[障がい者支援 基本事業③]は、事業を推進することにより障がい者への理解が深まったかを指標としたいため、このままアンケート結果を指標としたい。	修正	(全体的に見直し)
4	全般	全般	今作る計画としては感染症対策を触れないわけには行けないだろう。どこの基本事業で位置づけるべきかは判断が難しいが言及しないわけにはいかない。		健康なのか危機管理なのかなど検討中である。各施策すべてで触れなくてもいいのでないかとは考えており、地方創生の関連でまとめて触れたりすることも含め検討する。	修正	1-3「健康づくり」の基本事業①において「新型コロナウイルス <u>等</u> 感 染症の予防 <u>について広く市民に啓発し、</u> 「新しい生活様式」を取り 入れながら健康づくりに取り組めるよう支援します。」と変更す る。

No	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
5		全般	〈審議会GL共通意見〉 「感染症」の視点について、健康づくり、市民病院、危機管理などへの記載が必要ではないか。	第4回		修正	(同上)
6	全般	全般	今回はSDGs、Society5.0を新たな視点として 打ち出している。全部が全部、合う訳ではないと いうところもあるが、あえて入れるという方針で あれば、それを見える化したほうが良い。それを 意識した書きぶりに変えていただかないと、新し い時代に対応できなくなる。どこかに書いておか ないといけない。 危機管理についてもコロナが起きているのに今ま で通りというわけにいかない。全庁的にどう対応 するのか。チャート化しておいたほうが、市民の 安心感につながる。	- C	Society5.0の視点は、各施策の「まち・ひと・しごと創生の視点」に書くようにする。 SDGsの視点は、各施策のページに17のゴールに関連するアイコンを表示しることで施策とSDGsの関連性を見える化する。 新型コロナウイルス感染症の全庁的な対応については。現在対応方針を作成中である。	修正	※Society5.0、SDGsについては各欄にて記載(※1) ※新型コロナウイルス感染症への対応については各欄にて記載(※ 2)
7	全般	全般	society5.0の計画への反映はどのように進んでいるのか。	第7回 - A	具体的にはまだ検討が進んでいない。	〔同上〕	
8	全般	全般	SDGsは理解しやすいように工夫してもらったが、Society5.0は計画の中にどのように反映するのか。それに対する理解ができていないと、落とし込みができないのではないか。		具体的に書けるものはよいが、書きづらい場合は「まち・ひと・しごと創生の視点」のところに心がけるべき視点として記載するよう投げかけている。 特に7-3「組織・人事」の中では「AI、RPA等の活用」を記載しており、情報化のところについても書けるところは書いていこうという考えである。	(同上)	
Ş	全般	全般	〈審議会GL共通意見〉 「食育」の視点について、健康づくり、農業、学 校教育などへの記載が必要ではないか。		全体的には健康づくりの立場で書かないといけないのではないか。 農業は食材ということであるし、それぞれが補完的な書き方をする ことになるのではないか。	修正	3-2「農業」の基本事業④に「また、学校給食などに地域の優れた 食材を提供する等により、食育を進めます。」を加筆する。 なお、1-3「健康づくり」にはすでに記載済み。
1	1	全般〔健康・福祉〕		- A	担当部署で検討いただいているが、「地域共生社会づくり」は初め にもってきたり、並びを変えることは可能だと思う。	修正	施策の並びを下記のように変更する。 「1-1 地域共生社会づくり」 「1-2 医療」 「1-3 健康づくり」 「1-4 高齢者支援」 「1-5 障がい者支援」 「1-6 子育て・少子化対策」
1	1	全般〔健康·福祉〕	保健と介護の一体と言っているが、「健康」「医療」と「高齢者支援」の間に「障がい者支援」が挟まっているのも関係が見えにくい、		(同上)	修正	

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
12	1-1	地域共生社会づくり	地域包括センターは旧市町村に 1 箇所ずつくらい は設置してほしい。	第 6 回 - A		原案通り	
13	1-1	地域共生社会づくり	具体的な取組③の「断らない相談支援体制」について、それって当たり前のことではないか。今までは断っていたということなのか。わざわざ挙げないといけないのか。この表現だとマイナスのイメージで誤解を招きかねない。	- A		修正	基本事業③を「 <u>包括的な</u> 相談支援体制」に変更する。
14	1-2	医療	看護師不足の中で確保することの取り組みとして 名張市のように将来、看護学校等の設置について		三重県が2013(平成25)年に公表した看護師の需給推計では伊賀地域の看護師不足は今後も解消されない見込みとなっています。看護師の不足は大きな課題の一つであることから、2017(平成29)年に策定した「伊賀市地域医療戦略2025」においてもプロジェクトの一つとして掲げ、現在、当市の看護師等医療介護人材の需給推計等について調査研究を行っています。名張市の看護師養成所は公立機関のみですが、当市においては社会医療法人畿内会が岡波看護専門学校を設置運営されている状況も踏まえ、関係機関との調整、協議を行いながら、看護師等医療介護人材の育成、確保に関するビジョンについて検討していきたいと考えています。	原案通り	
15	1-3		働く世代や若者世代への健康づくりのための具体 的な取り組みについて		2016 (平成28) 年度より働く世代の健康づくり「いが忍にん健康プロジェクト」として、市内事業所や高校などとも連携して健康づくりの事業を実施しています。 2019 (平成31) 年度は、事業所にて従業員向けの健康測定会や禁煙啓発、高校の文化祭で生徒や保護者、教員向けの健康測定会や自殺予防週間の啓発、食生活改善推進員の協力を得て商業施設で野菜啓発イベントなどを実施しました。また、健康づくり登録講師(まちの講師)についても企業や団体などへも周知し、子育て世代(保育所など)や働く世代(事業所など)での健康づくりに活用いただきました。 2018 (平成30) 年度からは、若い世代や働く世代に身近なツールであるLINEを活用して、健康情報の発信や健康マイレージの応募ができるようにしています。今年度は、行政情報番組の動画配信を活用して運動や子育て、栄養などの健康づくり情報の発信も行っていきます。		

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
16	1-3	健康づくり	「まちの講師」の活用状況(昨年度)今後の運用 と住民自治協等への活用の働きかけについて		2019 (平成31) 年度の活用は32回で、住民自治協議会や企業、保護者会など幅広く活用されています。住民自治協議会については、毎年「まちの講師」の案内冊子を送付しています。 例年は住民自治協議会代表者対象にまちの講師体験研修を年1回開催し、紹介しています。しかし、今年度は新型コロナ感染症予防のために出前講座実施が難しい状況です。 今年度は、行政情報番組で「いが忍にん健康プロジェクト」コーナーを開始し、まちの講師とともに健康講座を実施し、自宅でもできる健康づくり事業を実施しています。	原案通り	
17	1-3	健康づくり	多数の市民啓発のために「健康フェア、健康まつり」のようなイベントの開催について		健康フェア等の大規模なイベントは実施していません。住民が参加 しやすい住民自治協議会単位での健康づくり事業を実施出来るよう に、健康測定会や出前講座、まちの講師の紹介など住民自治協議会 への協力支援、健康についての情報提供を行い、地域主導の市民の 健康づくりの取組みを推進しています。	原案通り	
18	1-3	健康づくり	健康マイレージの昨年度の取り組み状況について		2019 (平成31) 年度実績 ・実施期間:6/15~12/27 ・応募人数:のべ361人、実人数149人 ・応募者アンケート 質問①日々の健康づくりを始めるきっかけとなりましたか →「以前からとりくんでいる」41%、「はい」54%、「いいえ」 1% 質問②今後も健康づくりの取り組みを継続しますか。」 →「はい」96%、「いいえ」0%、「未記入」4% 2019 (平成31) 年度は、健康マイレージのバンフレットを市内事業 所や店舗、医療機関や住民自治協議会などへも配布を依頼し、地域 や職場などでも健康づくりに活用いただけるように広報周知を行いました。	原案通り	
19	1-3	健康づくり	健康マイレージは応募人数が増加したからといっ て本当に良くなるのか疑問。	第6回 -A		原案通り	
20	1-4	高齢者支援	基本事業③の「見守りを兼ねた配食サービス」は 具体的にどういうことを考えているのか。	第6回 - A	配達員による見守りも兼ねて委託で実施している。	原案通り	
21	1-4	高齢者支援	8050問題がクローズアップされていますが現 状把握について		2016(平成28)年、民生児童委員を対象に、65歳未満のいわゆる「ニート」「ひきこもり」の状態にある人の調査を実施しました。 民生児童委員が把握している該当者は132名でした。その多くが親と 同居し、経済的な支援を受けていると推測されます。2019(令和 元)年度に、養護者による高齢者虐待の通報件数は33件あり、その うち8050問題がベースにあるケースは約1/3でした。	原案通り	

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
22	1-5		就労支援に行政から企業への働きかけと障がい者 雇用規定に取り組まれているかの状況調査につい て			原案通り	
23	1-6	子育て・少子化対策	赤ちゃん訪問実施率も来たからいいのか疑問。	第6回 -A		原案通り	
24	1-6		第2次計画と基本的には変わっておらず指標もほぼ達成しているのに、変わらずにあげている事業があるが、この先4年でさらにどう良くしていくのが見えないところがあるので、どんな事業にさらに力を入れていくとよいのかという観点から事業や指標を設定する必要があるのではないか。		再度検討する。	原案通り	基本事業①子育で相談支援事業にかかる成果指標について、本来子育でに対する相談先については、すべての保護者に認識していただきたいところであるが、現状を踏まえ更なる認知度の向上を図るため、当該指標の設定を行います。
25	1-6	子育て・少子化対策	子どもの貧困問題についての現状と市としての取り組みについて		2020 (令和2) 年度から2024 (令和6) 年度までを計画期間とする第2期伊賀市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、教育・保育事業や子育て支援事業の利用状況や希望を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に、2018 (平成30) 年度において、就学前児童を有する2,500世帯と小学生及び中学生を有する全世帯に対し、「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」を実施しました。本調査では「生活困窮層」について、所得、家計の逼迫、子どもの体験や所有物の欠如の状況から判断しており、就学前児童、小学生、中学生と子どもの年齢が上がるにつれて、これらの指標によって生活困窮層であると判断できる世帯の割合が高くなっている現状がありました。このことから、第2期伊賀市子ども・子育て支援事業計画において、子どもをとりまく貧困対策の推進を基本施策に新たに位置付け、貧困状況にある子どもと保護者に対し、教科の学習や生活習慣の改善などの教育の支援、生活に関する相談などの生活の支援、職業相談を通じた求人情報の提供や職業訓練などへの誘導など、保護者に対する就労の支援、各種手当などの支給や助成に加え、貧困状況にある子どもに対しての経済的支援を行っています。	原案通り	
26	1-6	子育て・少子化対策	子どもの貧困問題についての現状と市としての取 り組みについて		生活困窮世帯の子供に対し、学力の向上を推進するため、訪問型の 学習支援を子どもの学習・生活支援事業とさいて伊賀市社会福祉協 議会に委託して実施しています。昨年度は子供4名に対し7名の学 習支援員がのべ152回の支援を行いました。	原案通り	

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
27	2-1	危機管理	危機管理で高齢者の避難や福祉施設の入居者への 対応などを具体的に示したほうがよいのでは。		基本事業の中の細かな事業に置いて自主防災組織については位置づけていくし、福祉施設については福祉部局からの流れで避難計画や 訓練を指導することになる。	原案通り	
28	2-1	危機管理	危機管理の災害時要援護者の支援は福祉の方に移 行するのであればそちらの基本事業に入れるべ き。		「地域の防災力・減災力の強化」の中に位置づけて取り組んでいく という考え方である。	原案通り	
29	2-1	危機管理	災害時の避難支援者への対応については庁内でどうなっているか。健康福祉なのか、危機管理なのか、どこにぶら下がってくるのかはっきりさせておかなければいけない。基本事業で位置づけがあったほうが良いだろう。	- A	前回計画でも若干は触れているものの、もう少し記載が必要かもしれない。 ↓ 「地域共生社会づくり」の基本事業②の事業内容を修正します。なお、防災や災害時の支援については、福祉の各個別計画にも記載しています。	修正	1-1「地域共生社会づくり」の基本事業②の文中「 <u>災害時もいかせる</u> つながりや」と加筆する。
30	2-1	危機管理	何か起こった時に誰が要支援者を連れていくか決めておかないと、いざというときに動けない。	第7回 - A	〔同上〕	修正	
31	2-1	危機管理	自主防災組織だが単位は自治協ということは、自 治会レベルでマニュアルを作っているところは、 自治協としてはできていないことになるのか。		自治会単位で避難所運営ができているところは、そこだけで運営するならばOKである。ただし、常時、人がいるところの拠点については自治協に1箇所と決めている。		
32	2-1	危機管理	基本事業②の「防災システムの整備」について、 個別指標が 0 から100というとやるかやらないか ということか。防災無線を 1 箇所でもやれば 100%ということか。		防災上の新しいシステムの話であり、計画したものを100%進めたいと言うことである。	修正	基本事業②の成果指標を「新たな防災情報システムの <u>導入率</u> 」と し、目標を「 <u>80%</u> 」と変更する。
33	2-1	危機管理	指標の目標値がすべて100%なのが気になる。インフラなので80%で合格というのはないのだろうが。これはアウトブットでもなく、インブットであって、どれだけ整備できるかという数値だろう。	- A	システムの整備自体が目的になっていると読めるので、再度検討させてもらう。	修正	
34	2-3	事故・犯罪防止 →安心な暮らし	事故・犯罪防止の基本事業③では、出前講座の回数が指標として設定されていないが、回数は指標として取るべきではないか。		今までは回数を目標にしていたが、回数が良いのかどうかという考え方もあり、今回は指標にあげていない。 ↓ 講座実施の効果として表れるものを指標としました。回数も指標となりえますが感染症への対策など実施に際し不確定な要素も含むため、今回の指標には明記いたしません。	原案通り	
35	2-3	事故・犯罪防止 →安心な暮らし	消費者の啓発では、SNSなどを活用するべきでは。		広報、ケーブルテレビ等の「等」の中で含めた考えにより、効果的なものを視野に入れたいと考えている。	修正	基本事業③の文中「広報、ケーブルテレビ等」を「広報、ケーブルテレビ <u>、SNS</u> 等」に変更する。

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
36	2-3	事故・犯罪防止 →安心な暮らし	小学校のマチコミだと、不審者が出た際に加入者 に案内が届くが、もっと広範囲で伊賀市全体で情 報が発信されるといいように思う。				
37	2-3	安心な暮らし	斎苑が住環境にあるのはしっくりこなかったので いいと思う。	第7回 - B		修正	
38	2-3	安心な暮らし	基本事業⑤に関連し、斎場は市町村合併する前から上野市以外も利用していたいのか。		圏域として利用されており、市外料金などはあったが上野市以外からも利用されてきた。	原案通り	
39	2-4	環境保全	めざす姿として「豊かな自然環境を守る」となっているが、基本事業の内容が目指す姿を実現するための事業となっていない。もう少し目指す姿を 実現するためにこういった取り組みを進めるとい う内容をぶらさげるべきではないか。		取り組みのか書き方が弱いかもしれない。昔の計画と今の計画で書いてあることがほとんど一緒かもしれない。	修正	めざす姿を「豊かな自然環境を守り次代へ引き継ぐ」に変更する。
40	2-4	環境保全	以前は、市民一人一人に温暖化防止の取り組みを呼びかけるため、節電チェックシートを配ったりしたこともあった。環境保全市民介護でもいるいろな事業を実施している。以前は検討分野といっしょになって環境フェアなども開催していた。今は市民に集まってきてもらって意識啓発をするような場がない。行政だけでしないといけないわけではなく団体も巻き込んで進めていってほしい。		取り組みのか書き方が弱いかもしれない。昔の計画と今の計画で書いてあることがほとんど一緒かもしれない。		現状と課題を「地球温暖化は温室効果ガスの排出増加が大きな原因とされており、このことが近年の気候の変動や生物の生態系に大きな影響を及ぼしていると言われています。生活様式の変化に伴い、自然と生活の結びつきが希薄になったこともあり、自然の変化に気づきにくくなってきています。レジ袋の有料化など自然環境を見つめなおすきっかけとする動きが進んできています。今後も身近な自然を感じ、守っていくための啓発などの取り組みが求められます。」と変更する。基本事業①のタイトルを「地球温暖化防止に向けた啓発の推進」と変更し、成果指標を「環境セミナーやクリーンウォークなど啓発事業参加者へのアンケートによる意識向上度」と変更する。また、本文に「環境ウォッチングなどの環境学習や美化活動の実施、環境ボスターコンクールを通じて環境に対する関心を高めます。」を加筆する。伊賀流自治の視点の「行政」に「地球温暖化対策のための啓発を行い環境への意識向上を促進します。」を加筆する。
41	2-4	環境保全	指標として水質環境基準達成度が挙がっているが、これは主に事業所の影響が大きく、市民が環境保全にかかわった結果というものからはかけ離れている。	- A	取り組みのか書き方が弱いかもしれない。昔の計画と今の計画で書いてあることがほとんど一緒かもしれない。		基本事業②のタイトルを「環境保全のための監視・調査」とする。また、本文に「 <u>安心して暮らせる生活環境を守るため、</u> 市内河川15地点の水質調査を継続実施して水質の状況を把握します。 <u>自動車騒音の調査や臭気等の調査を実施します。</u> 」と加筆する。伊賀流自治の視点の「行政」に「また、環境保全のため、水質検査などの調査や不法投棄などの監視を行います。」を加筆する。

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
42	2-5	一般廃棄物	処理コスト削減について、今後4年間はこのまま	第6回	今年から6年の契約であり、計画期間内はこのままでいく。	原案通り	
			いくのか。計画的に考えていることはないのか。	- A			
43	2-6	上下水道	めざす姿が「安全でおいしい水と、美しい水環境	第7回	 上下水道の組織が一つになったため事業も一体的にという意識が出	修正	まち・ひと・しごと創生の視点を「本市は木津川水系の上流に位置
			を守る」となっているが、基本事業の内容がそれ	- A	ているが、目的も違うものなので、再度検討させてもらう。		し、下流水域である奈良・京都・大阪の水源となっていることか
			を実現するための内容とはなっておらず、指標も		↓		ら、美しい水を提供することで「水のきれいな伊賀市」をアピール
			それらを表現するものとなっていない。水の循環		上水、下水それぞれ基本事業を策定します		し、市民意識の高揚を図ります。」と変更する。
			を守る、水辺の環境をどう守っていくといったこ				
			とが事業として見えてくるといい。				
44	3-1	観光	ここのところ伊賀市では忍者を強く推している	第6回	全国に忍者を売り出しているところはたくさんあるが、伊賀の忍者	原案通り	
			が、最近では他の地域でも忍者で売り出してい	- B	として「本物」であることをアピールしていきたい。		
			る。伊賀市では地道に取り組んでいけばいいので		地域全体が忍者のまちとしているのは他にないところだろう。入り		
			はないか。なお、忍者体験などは他の地域でも		口として忍者はわかりやすいので、そこをスタートに伊賀の自然や		
			やっているのか。		おいしいもの、温泉などにつなげていきたい。		
45	3-1	観光	それぞれは素晴らしいのに、地元の人が知らな	第6回	 地元の良さを知ってもらう意味でも「いがぶら」などを実施してお	原案通り	
			かったり利用していないので、地元の人向けの観	– B	り、伊賀市の良さを理解してもらい、そして周りの人に伝えても		
			光であったり、地元の人がお金を落とすしくみが		らって伊賀市に来てもらうという流れに持っていきたい。		
			できるといいのではないか。				
46	3-1	観光	市民が一体となっておもてかしをする心が持てて	第6回	観光まちづくり企画塾はそういった観点からも自らのまちをよりよ	原家通り	
40	3 1	時だ プロ	いないのではないか。市民を巻き込む戦略、住ん		くしていこう、発信していこうということにつなげていくものだろ	が未起り	
			でいる市民にプライドを持ってもらうことがいる		う。他の資源との連携については、DMOがつなげていく役割を担っ		
			のではないか。実状は95%が忍者押しであるが、		ていくことになると考えている。		
			まつりや芭蕉さんなどとの連携があってもいいの				
			ではないか。				
47	3-1	観光	基本事業の内容が第2次と同じだが、変えるとい	第6回	具体的な内容については追加・修正を考えているが、それらは基本	原案通り	
			う判断はなかったのか。		事業からもう一つ下の実施事業レベルだと考えている。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
48	3-1	観光			アウトカム指標にすることを意識していたためこのような指標設定	修正	アウトカム指標を前提に次の目標指標としたい。(別添成果指標一
			えれば消費者単価も上がるので、別々の施策にリ		になった。DMOに関連する形での指標設定については、わかりやす		覧を修正しました。)
			ンクする指標を張り付けるのは違うのではない		い指標があれば検討したい。		①旅行消費額
			か。①の方はDMOにどのような機能を持たせる				②リピーター率
			か、といった内容の方が誘客に力が入るのではないか。宿泊数のパイは小さく、そのパイの数より				
			は質をどう捉えていくかが課題になるのではない				
			か。				

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
49	3-1	観光	各主体の役割で、関係団体・機関が情報発信する だけでなく、市民一人ひとりが口コミで情報発信 していくとした方がいいのではないか。		観光まちづくり企画塾の中でSNSで情報発信してもらい、それを市 民が知って広めてもらうことを想定していた。	原案通り	
50	3-2	農業	基本事業①は「農畜産物」ではないか。 農業者によって価値観も異なり、手間をかけてブランド化するより量を多く売ったほうがいいという人もいる。 山間部の田は作るのが大変であり、林地化して保水力を高めるほうが防災対策になるのではないか。 多面的事業の補助金があるからまだやれるが、それがなければ本当に厳しいのが農業の現状である。			修正	基本事業①のタイトルを「農 <u>畜</u> 産物の生産振興」と変更する。
51	3-2	農業	松阪牛のように、ブランディングの角度から考えられないか。		伊賀牛は8割地元消費である。なかなか手に入らないという形でもう 少しブランド力を高められると良い。	修正	現状と課題の4つめ「肉牛農家は減少傾向に <u>あります。ブランドカの向上や</u> 素牛確保の手法も含めて畜産振興に取り組む必要があります。」と変更する。
52	3-2	農業	集約化、法人化しないと農業機械をそろえるのに も多額の費用がかかる。		機械助成というのはしているが、担い手、組織を含めて話し合いを しながら考えていく必要がある。 ↓ 集落営農組織や先進的農業経営体には国・市の施策でかなり手厚く 支援している。	原案通り	
53	3-2	農業	有害鳥獣被害への対策というのは外してしまって 良いのか。外すのは良いとして、関連するところ に支援することを書いたほうが良い。		農畜産振興の生産振興として、そちらの中に入れていきたい。	修正	基本事業①を「 <u>鳥獣害被害が大きな社会問題となっています。そんな中、被害を減少させるため、</u> 地域ぐるみで鳥獣害対策を行います。」に変更する。
54	3-2	農業	農地、用排水路における防災対策としての維持保 全を追加してもらうと良い。		多面的事業には、ご指摘の農地、用排水路における防災対策を含んでおります。	原案通り	
55	3-2	農業	移住者の就農についても担い手の中に書いておい てはどうか。	第6回 -B		修正	基本事業③を「 <u>在住者・移住者の</u> 新規就農に向けて、」に変更する。
56	3-2	農業	地産地消については、子どもに対する食育といっ た指標を選ぶべきではないか。	第6回 - B	再考したい。	修正	基本事業④に「学校給食などに地域の優れた食材を提供しやすくなる仕組みを整えます。」を加筆する。
57	3-2	農業	担い手の確保・育成に関して、空き家バンクで移住された方で農業をされる方がいるが、機械への 投資に多額の費用がかかるので、支援、助言をし てはどうか。	- B	空き家対策の中で聴き取りや支援のしくみをつくっている。もう一 歩進めて機械についても助言していけると良い。 ↓ 担い手になろうとする真意就農者には、国・市の施策でかなり手厚 く支援している。	原案通り	

No.	新釆早	施策キーワード	意見	発言回	回炫	対応方向	修正内容詳細
	3-3	森林保全・林業	森林環境整備、施行の促進、担い手の育成や団地			対応中	100 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
20	3-3	森 休休 主・ 休 未				刈心中	
			化など、もう少し詳しく書いてはどうか。	– B			
59	3-3	森林保全・林業	 所有者がはっきり決まっていない を守るには森	第6回	■ まずは境界明確化をやらなければならない。伊賀の山づくり協議会	原案通り	
		1131	林委託しかないと思うがどうか。境界の明確化も		がやっと動き出したところである。所有者も分からない状況で、ノ	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
			限界に来ているのではないか。		ウハウを持っている森林組合と一緒に進めていきたい。		
			限界に来ているのではないか。		リハソを持つしいる林怀祖古と一粕に進めしいさだい。		
					所有者が決まっていないのではなく所有者間の境界が不明確なのが		
					現状である。		
60	3-4	中心市街地活性化	空き店舗の活用件数を指標に選んだ理由は何か。	第6回	使いたい方が潜在的にいるので、活用できるところの整理をはじめ	原案通り	
				– В	 ている。新しく始めたい人への支援をしたいということである。		
61	3-4	中心市街地活性化	基本事業①の内容は第2期と同じだが、どういう	第6回	街なみ環境整備事業も市街地整備推進事業も、回遊のためのルート	原案通り	
			考えか。	— В	を作っていこうと言うことで、現在まだ途切れ途切れのものをつな		
					いでいこうとしているものである。		
62	3-4	中心市街地活性化	旧上野市庁舎が市町と議会との対立で延び延びに	第6回	生活、環境などいろんな面で重要であると認識しており、ぜひ活用	原案通り	
			なっている。うまく利用できる方法を考えてほし	– В	していきたいと思っている。		
			ر _٧ ٠,				
63	3-5	商工業・産業立地	商工会議所、商工会への新規入会数が唐突に感じ	第6回	入会すれば良いというわけではないが、同じ指標を継続している。	原案通り	
			る。入会数が増えると果たして活性化支援につな	– В	↓		
			がるのか。		 商工業活性化の指標としてはふさわしくないかもしれないがこれま		
			商工会議所や商工会に指標を持たせるのはどう		でと同様に継続していきたい。また、それに代わる指標が見当たら		
					ない。		
			<i>δ</i> '.		14 V 10		
64		商工業・産業立地	ここは個別指標が1年間の数字になっている。		年度の間違いであり、すべて2024(R6)に訂正いただきたい。	修正	2024(R6)に変更する。
	3-6	就業・起業		- B			
65	3-6	就業・起業	右効束	笛6回	3月以降、ずっと下降している。通常が1.3であり、そこまで盛り返	百安涌 h	
03	3-0	- 加木· 起未				赤米地リ	
			ら、それを元に戻そうと言うことか。	– B	したい。		
66	4	全般〔生活基盤〕		笛7回	平成22年に20年先を見越した10年計画として策定されており、本年	百安涌り	
00	1	工/以 (工伯巫笽)				が未進り	
			<i>^</i> , .		で10年となるため見直しを進めているところである。早ければ来年		
					度見直しをさせていただきたい。		
	1	全般〔生活基盤〕	切せ計画ニッカー デニンパセケ 佐佐 ウェス・コ	燃っ口	田左の中央と映画より切りだなりようし日による。幼人に下しる動	日本ネッ	
67	4	王収〔生活基監〕	都市計画マスタープランが来年度策定となると、		現在の内容を踏襲する部分が多くなると見込まれ、総合計画との整	尿柔地リ	
			この総合計画に間に合わないが、内容的に変わっ	– B	合には影響はないものと考えている。		
			てこないか。個別指標も変わってこないか。				
	1	I .	1	1	I .		1

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
68	4-1	都市政策	森林組合や山を所有している方と話をすると、相 続の対応ができていない土地が非常に多いと聞 く。登記上はひいおじいさんの登記になっている など、皆さんどうしようもできない状況である。 公的などこかが対応していただけるとありがた い。	- B	所管は県になるが、所有者が不明の場合は、手続き的に対応することはできる。所有者がわかっている場合は行政が対応するのは難しいかもしれない。	原案通り	
69	4-2	住環境整備	基本事業①と基本事業②について、第2次と第3次で内容が一緒であるが、第2次の取り組みを検証した結果、第3次で変更になる点はないのか。	第7回-B	木造住宅の耐震診断は無料となるが、耐震化の工事となると800~1000万円ほど費用がかかり、市や県の補助金を合わせても150万円ほどなので、なかなか耐震化の工事は進んでおらず、引き続き取り組みを進めていきたい。基本事業②については、公営住宅長寿命化計画に基づき、公営住宅の判定結果のもと改善すべき住宅は個別に工事を進めており、従来からの取り組みを今後も継続していく。	修正	現状と課題の1つめを「毎年除去される住宅があること、新築される住宅があることから、自ずと耐震化率は改善されますが、本市における近年の耐震補強補助実績が年1~3戸である状況から、懸案されている南海トラフ地震に備え、耐震化を推し進める取り組みが必要です。」と変更する。 基本事業①を「リフォーム工事の補助制度及び市独自の上乗せ補助を実施し、診断結果から概算工事費を見積もるなど補強工事につながる取り組みを進めます。また、庁舎ロビーにおいてパネル展を実施するなど木造住宅等の耐震化促進に広く取り組みます。」と変更する。
70	4-2	住環境整備	木造住宅の耐震化がなかなか進んでいないという 説明だったが、そうすると基本事業①の指標につ いて、耐震性のない住宅割合60.4%を38.3%にす るのは無理があるのではないか。		国の住宅土地統計調査の平成30年の数値から実績値が出ており、調査は5年ごとに実施される。目標値は調査の値から推計して出している。		基本事業①の成果指標を「住宅の耐震化率」に変更し、2023(R5)の 目標を「86.8%」とする。
71	4-2	住環境整備		第7回 - B	基本事業①の指標について、目標は計画最終年の2024年とし、指標 の設定も毎年指標値が追えるものにする。	修正	
72	4-2	住環境整備		第7回 -B	基本事業②の指標値が入っていないため次回までには入れてお示し する。	修正	基本事業②の成果指標を「国の交付金を活用した市営住宅の改善 <u>の</u> 累計」と変更し、2024(R6)の目標を「10件」とする。
73	4-2	住環境整備	伊賀市ではアパートやマンションが多い印象があるが、古いマンションでは耐震化に取り組まれておらず、大家の関心も薄いように思われる。安全面は大丈夫か。	- B	木造3階以下は対象なので、毎年。地区を決めて、診断士の方や協議 会、自治会役員などでまわって確認を行っている。	原案通り	
74	4-2	住環境整備	他の市町と比べると伊賀市は草の管理がされてい ないところが多いように感じる。		限られた予算の中でバス路線や交通量の多い路線を中心に草刈りを 行っているが、市民に方々に満足していただけるには至っていない かもしれない。		
75	4-2	住環境整備	管理が十分になされていない空き地について、どうしたらいいのか。所有者は遠くにいて管理がなされていないため、近所の者が草刈りをしたりしている。		原則、所有者の管理責任となるが、草刈り条例も制定してあり、環 境部局の方で対応している。		

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
76	4-2	住環境整備		第7回	空き地、空き家の対応、草刈りなどについては、生活環境分野のど		
				- B	こかで触れていくこととしたい。		
77	4-2	住環境整備			お配りした資料の段階では2本に分けていますが、その後の協議の結		基本事業は1つにまとめ基本事業③「空き家対策の推進」と変更す
			第3次で分けたのはどうしてか。		果、1本にすることになった。なお、基本事業⑤の斎苑についても住		ঠ _°
					環境ではなく生活環境分野にもっていくことになった。		
78	4-2	住環境整備	基本事業④に関連し、空き家バンクを活用し移住	第7回	移住関連は担当が違うが連携してやっていきたい。	原案通り	
			した方について、市として受け入れて終わるので	- B			
			はなく、住みやすい状況を作っていっていただき				
			たい。				
79	4-2	住環境整備				原案通り	
			をしている。ここ最近の状況として、近場で高級 志向なところが人気になっている。もっと面的に		ニーズに合っている。コロナにおける生活様式の変化を逆に追い風		
			進めていく形をとってほしい。また、市街地とし		としていくことも大事である。ホテルだけでなく、来てもらった方 の行き先の充実も含め、まち全体で活性化を図っていかなければな		
			ての整備も不可欠であり、インフラが整備されて		らない。		
			いないとせっかく来てもらっても不便な印象を		9.40.		
			持ってしまう。				
80	4-2	住環境整備	現状では8時を過ぎるとどこも真っ暗であり、来			原案通り	
			てもらった方が夜遅くでも手ごろな値段で地元の	- B			
			ものを食べてもらえるところが必要だろう。				
81	4-3	道路	第2次では道路修繕が別立てとなっていたが、第3	第7回	道路修繕について日常的な業務として同じ項目に含ませることとし	原案通り	
			次は道路修繕も道路改良に含まれるということ	- B	た。		
			か。				
82	4-3	道路	自然災害など多発しているが、道路の機能維持		法面の調査はかつて実施しており、現状で問題となっている箇所は	原案通り	
			は、特に山間部においては重要になってくるだろ		ないため、今は事業をしていない。チェックについてはパトロール		
			う。法面に自生する木や竹が災害時に支障が出て くるという話も聞く。そういったこともチェック		をする班も設置してあり、確認はしている。		
			いただければと思う。				
			1010174014 C10170				
83	4-3	道路	橋梁の維持修繕として1500ある橋のうち、かなり	第7回	修繕が必要な橋梁は87橋である。山神橋については本年度基本設	原案通り	—
			の数を修繕していくのか。山神橋はいつ直るの	- B	計、来年度詳細設計の予定で進めている。		
			か。長い間あのままではよくないだろう。土橋橋				
			の方に回る人も多く危険である。				
8.1	4-4	公共交通	リニアは入れておく必要があるのか。	第6回	リニアの建設促進同型会で一緒に取り組むことがあり、触れておき	修正	リニアについては削除とする。
04	**	ム六人地	/ ー / は八40 Cも \ 25女 /*の G り //*。	毎6回 −B		沙址	ノーノ に フィ・C は 自10以 C チ る。

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
85	4-4	公共交通	コロナで利用者数が落ち込んでいるなか、伊賀線 の年間利用者数の目標をもう少し下げるべきでは ないか。		これは再構築の数字である。再度検討してみる。	原案通り	指標は、現在進めている鉄道事業再構築実施計画で定めた輸送人員の推計値であり、計画数値上の根拠となっています。コロナ禍という想定外の事態により現状と乖離が生じているものの、再構築計画を変更せず直ちに別の数値を用いることは整合が取れないと考えます。なお、再構築計画自体の見直しは、計画の進捗状況等を踏まえ、5年経過時点で必要に応じて行うことになっています。
86	5-1		「現状と課題」の書き込みは第2次計画から変更 になっているのか。ほぼ同文だとすると、そのま までよいのか。		今年度、アンケート調査をするので、その結果を受けて計画を策定 する。	原案通り	
87	5-1		計画づくりの視点に $SDGs$ $\&$ Society 5.0 が上がっているが、何を入れるかは各課が判断されるのか。		それぞれの施策でそういう視点を入れている。 今年度、人権意識調査を実施し、第4次計画に具体的に反映予定	原案通り	
88	5-1		SDGsでは貧困やジェンダーがある。そういう 大きな課題を入れてもらう必要がある。	第6回 - C	今年度第4次男女基本計画を策定中であり、計画に具体的に反映	原案通り	
89	5-1	7 11- 4 77 27 11	基本事業③の指標として女性の登用率は簡単。政 策につなげるには、女性を登用して、それが政策 につながった率としたほうがよい。		登用主体は外部団体であり、引き続き、登用について強く依頼を行う。	原案通り	
90	5-1				問題提起はしている。保育所には入れないから働けないなどの人が働ける環境づくりが必要だが、まだ担当課間での協議段階である。	原案通り	
91	5-1	人権尊重・非核平和	非核平和を特だししている理由はあるか。		「非核平和都市宣言」を宣言している市として、戦後75年となる中で、戦争の悲惨さ、平和の尊さについての体験談を語る方が少なくなる中で、その思いを引き継ぎ、平和への取り組みを全市民で発信していくために、非核平和の取り組みを続ける必要がある。	原案通り	
92	5-1				人権尊重という基本理念の下に人権施策が取り組まれる。非核平和 は人権の取り組みの必須の前提となるものである。	原案通り	
93	5-1				人権尊重という理念の下に人権意識の高揚・人権擁護救済等の人権施策が取り組まれる。当然「多様性の尊重」もその中にあり、多様性を認め合い共生社会の実現に向けて取り組みを推進する。	原案通り	
94	5-1		男女共同参画については1つの基本施策にならないのか。	第7回 - C	対応する。	修正	基本事業は1つにまとめ基本事業③「男女共同参画の推進」と変更 する。

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
95	5-1	人権尊重・非核平和	〈審議会GL共通意見〉	ΡЈ	元々単独だったものをここに持ってきたものであるが、1つにまと	修正	
			男女共同参画に関する基本事業が3つ挙げられて	第4回	める方向で担当と話をする。		
			いるが、この3つは男女共同参画基本計画に掲げ				
			る3つの基本目標なので、基本事業としては「男				
			女共同参画」として、概要を「男女共同参画基本				
			計画に掲げる3つの目標「・・・」を達成に向				
			け・・・する。」にようにまとめられないか。				
96	5-1	人権酋重・非核平和	性的マイノリティという表現に問題はないか。	第7回	 「性自認・性的指向等に関すること」に変更。	修正	現状と課題の1つめ「子ども、女性、障がい者、外国人、高齢者、
	J 1	八個守里 列次 1 加	正町、イブラティで、ラスがに同窓はない。	- C	一日郎 田田田寺に関すること」に変た。	—	性自認・性的指向等に関することなどあらゆる人権問題 に変更す
							る。
97	5-1	人権尊重・非核平和	三重県が進めている共同参画の施策については、	第7回	市では、男女共同参画基本計画を策定しており、その計画の位置づ	原案通り	
			それほど意識する必要はないのか。	– C	けとして、国・県の基本計画を踏まえている。このことから、国・		
					県と連携した取り組みを推進している。		
98	5-3	学校教育	基本事業①の指標は誰がそう思う割合か。		学校の関係者評価によるもので、保護者、関係者がそう思う割合で	原案通り	
				– C	ある。		
00	5-3	学校教育	市政の役割を共有するための実現手法は。	笠 6 同	各学校マニフェスト及び学校評価アンケートの結果をホームページ	百安温り	
77	5-5	子仅仅有			を通じて公表している。	ぶ 米地リ	
					EMBC CARD CV-3.		
100	5-3	学校教育	 問題解決のために組織化はしているか。	第6回	 そこまではできておらず、めざしているところである。今後、市内	原案通り	
				– C	小中学校でのコミュニティ・スクールの設置をめざしたい。		
101	5-3	学校教育	心豊かで健やかに成長する教育とあるのが3本柱	第6回	学力というと5教科であるが、伊賀市が考える学力保証は「生きる	原案通り	—
			と一致するのか。学力の保証とは一般的には5教	– C	力」であり、文化芸術を通して情操を高めることも重要である。		
			科である。心豊かに健やかに成長するというと				
			き、情操を育てる手段が文化である。文化振興ビ				
			ジョンでも、文化的人権の保障の次が子どもたち				
			である。学校現場の視点から同じくしてもらう				
			と、結節点はある。3本柱を見直さないか。文				
			化・芸術も必要である。文化行政としても連携し				
			たい。				

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
102	5-3	学校教育	SNSでのトラブルで子どもが事故につながる。対策を取っていただいているとのことだが、それが目に見えない。学校、家庭でも分からない現状で、伊賀市では具体的にどう解消するのか。	- C	現状としては未然防止の取組を重視し、小学校から情報モラルにかかわる学習をしている。保護者には、フィルターをかける、ルールを決めることの大切さを理解してもらうようお願いしている。警察、携帯事業者も学習教材を用意して講演してくれるので、外部機関も活用し、危険な場面を児童生徒や保護者に知らせて未然防止をしている。この問題は目に見えてあがってこないところが難しい。具体的に教員がネットの中を探るのは難しく、日記や日常の会話、様子の中で子どもたちの変化を見つけ、早期対応を行っていくことを考えている。	原案通り	
103	5-3	学校教育	総合戦略の視点で「協力・参画したりしたい」という表現はおかしいのではないか。	- C	地域住民が「協力・参画したい」と思えるような魅力ある学校・園 づくりに努めます。そのために、コミュニティ・スクールの設置を 推進していきます。	修正	まち・ひと・しごと創生の視点を全般的に見直す。
104	5-3	学校教育	学校マニフェストは、学力、人権、キャリアの3本柱の上に全部立っているというイメージだったが、2つめの「現状と課題」が盛りだくさんで何が書いてあるか理解しづらい。マニフェストを作りかけた頃のその部分を踏襲するのか、ごっそり変えるのかにかかわってくる。つなげれば良いというものではない。	- C	学校マニフェストは「学力」「人権」「キャリア」の3本柱となっています。この考え方は、伊賀市の学校教育のスタンダードとして、当初より引き継いでいます。ただ、時代の変化により、子どもを取り巻く環境の厳しさに対応するためにも、関係機関と連携し「チーム学校」としての学校運営の必要性やICTの活用といった現代的な課題も記述しました。	原案通り	
105	5-3	学校教育	いやにスリムになったなと思う。スマートになり すぎてしまっている。内容的には詳しいことは分 からないが、これだけで良いのかと思う。	– C	今回見直させていただいた「学力向上等推進事業」「人権同和教育 推進事業」「キャリア教育推進事業」はすべて、「地域とともに学 校マニフェスト推進事業」に取組内容が含まれるものであるため、 このように精査させていただきました。	原案通り	
106	5-3 5-5	学校教育 生涯学習	学校教育と生涯学習で、感染症を踏まえた施策が必要である。学習と名の付くものは集団というイメージがあるが、それだけでは対応しきれない。それで不登校の子が救われたという事例もある一方で、休校の間に生活が変わり、学校に行くのがしんどくなったと言うこともある。大きな影響があるのに、これまで通り受講者が来てなんぼの計画ではいけない。通信機器などを使いこなしていかないといけない。環境整備も必要なので大きな話だが、そんなことを想定して欲しい。	- C	新型コロナ感染症拡大防止対策やSDG s の視点について「まち・ひと・しごと創生の視点」に記載する。	修正	5-4「教育環境」に基本事業③「児童生徒1人1台端末整備事業」を追加し、「2020(令和2)年度中に、児童生徒が1人1台の端末を持つ環境を整え、翌年度からは、学校教育現場はもちろん、家庭学習にも利活用できるように指導体制を整え、学力向上等に役立つように進めていきます。」を加筆する。

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
107	5-4	教育環境	校区再編には不安が絶対に付きまとう。通学問題 や学校がなくなることに対する不安に対してはど うか。		統合は地区、学校、行政が3者で合意と参画を主軸にし、必ず協議をして合意を得て、参画していただく。時間をかけて進めてきた。 ↓ 「各主体の地域の役割」欄に記載のとおり、関係者や地域の参画を 得て事業を推進しています。	原案通り	
108	5-4	教育環境	個別指標はどう見るのか。 これ自体が4年間の指標になるのか。		上野南部と阿山を推進したいので2つであり、計画が完了することでの目標を0と置いている。	原案通り	
109	5-5	生涯学習	問題視している部分として世代の偏りがある。子育て世代がいない。生涯学習は一番現場に近く、同じ悩みを持っている。文化行政の視点から、ともすればとてつもない弊害を生む。人と物、金がある人への事業なら社会格差が広がる。	– C	自治協で運営している上野、青山は独自の活動である。地区公民館は地区、自治協で独自にしているものもあり、それぞれで活動している。	原案通り	
110	5-5	生涯学習	公民館の運営協議会。数の集まりのために終始している。本当に必要なものという課題認識がされている、自治協に任せたら集まる人しか集まらない事業ではとんでもない。来られない人に対しては、福祉に送迎をお願いしたら。	– C		原案通り	
111	5-5	生涯学習	基本事業②の目標について、増加させようという 意欲は良いが、施設が変わらないのであれば ちょっと無理ではないか。		施設課題解決も見据えた中で、全市民に利用いただけるよう様々な 取り組みを進めたいと考えている。	原案通り	
112	5-5	生涯学習	図書館のところに自治協が出てくる。生涯学習と 自治協はミスマッチだと思うが、連携するなら課 の名前を書いて連携を促す必要がある。責任のあ る書きぶりをしてもらいたい。個別事業で落とし 込みをしてくれれば良いが、市民の皆さんが分か るようにしてもらわないと、見込みで書いている のであれば怖い。	- C	自治協の活動への支援については、行政関係課や関係機関との連携 は必要であるため追記する。	修正	基本事業①を「また、各住民自治協議会が 地域の活性化を目指し、 自主自立による特色ある生涯学習活動を行えるよう関係課や関係機関等と連携し ながら 積極的に支援を行います。」に変更する。 基本事業④を「 <u>市民団体等と連携し、</u> 「輝け!いがっ子憲章」の <u>周</u> 知・啓発を行います。」に変更する。
113	5-5	生涯学習	評価と合わせてみると、読書活動推進事業の指標 が団体数というのはちょっと違うかと思う。	第7回 - C	指標を、「上野図書館ほか分館における児童書の年間貸出冊数」に 変更する。	修正	基本事業③の成果指標を「上野図書館ほか分館における児童書の年間貸出冊数」に変更し、目標を「145,000冊」とする。
114	6-1	多文化共生	関連計画の「共生指針」は評価の際に申し上げた ビジョンのようなものか。		旧上野市時代には国際化プランがあったが、これまで20年間、ビジョンがない状況であった。来年度、理念を作成し、基本施策を作り上げたい。教育、子育て、労働などが絡むので、団体、地域が果たすべき役割と行政の役割や連携を検討したい。	原案通り	

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
115			基本事業②の文化ホールの入場者数について、物理的に高めることは簡単であるが、それでいいのか。文化振興ビジョンでは入場者数を高めるとは書いおらず、誤りになる。子どもたちがターゲットなら、子どもたち対象のイベントの事業数、参加者数ではないか。	- C		修正	基本事業②の成果指標を「文化ホールにおける自主事業入場者数に 占める子どもの割合」と変更し、目標を「(算定中)」とする。
116	6-3	歴史・文化遺産	保存管理については。		あくまで目標であり、文書館の事例を調査した。資料を整理し、閲 覧に供するものである。	原案通り	
117	6-3		指標が「設置」や「策定する」である。数値化しろという意味ではなく、それによってどう向上するかなどを把握しておきたい。		_	修正	基本事業①の成果指標を「指定及び登録文化財数(累計)」と変更 し、目標を「520件」とする。 基本事業④の成果指標を「歴史資料の閲覧件数(年間)」と変更 し、目標を「50件」とする。
118	6-3		アンケートの回答率でもよい。いろいろ考えてい ただいたら良い。	第6回 - C	_	(同上)	(同上)
119	6-4	スポーツ	スポーツを楽しむについては、対象の年齢層があるように思う。中学校は部活が学校でできなくなる。それを地域でという視点はないか。		大人を対象としている感がある。	原案通り	
120	6-4		基本事業②関連する計画で最適化、再編といいながら、利用人数を増やそうというのはつじつまが合わない。数字は社会変化の影響を受けやすい。右肩上がりの目標を挙げるのか。コロナの影響でどう修正するのか。今ある施設の稼働率などは社会変化に対応している。利用者数だけでは苦しくなる。	- C		原案通り	最適化、再編により、施設の稼働率の上昇を図る。
121	6-5		シティプロモーションをあえてカタカナ表記で入れたのは意味があるか。		シビックプライドは郷土愛。郷土愛を育てて定着させるのがシティ プロモーション。	原案通り	
122	6-5	シティプロモーショ ン	外向きと内向きがあり、よく言うのは看板づく り。もっと位置づけを挙げるべき。「○○立市」 というような意識で上げるべき。		「定住・関係人口」施策に改め、オール伊賀市で魅力発信や若者育成、また移住・交流を促進する内容とした。	原案通り	
123	6-5	ン	地方創生は3年で終わってしまうが、終わって良いのか。格上げすべき。若者意見が貴重だと言うことを理解し、若者の意見を採り上げれば良い。		審議会に2名入っていただいた。	原案通り	

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
124	6-5		人口は確実に減っていく。人口維持は積極的な感	第6回	減ることは分かっているので、満足度をあげるとか、そういうこと	原案通り	
		ン	じだと思うが、減っていっても魅力を維持してい	– C	も今後は必要である。シティプロモーションだけではなく、どう		
		→定住・関係人口	く方向性があるのか。		やって動くか。プラスに持っていけるのは外国人が来てくれるため		
					である。外国人を評価することも必要である。		
125	6-5	シティプロモーショ	伊賀市の魅力をどう発信していくのかというこ	第6回	_	原案通り	
		ン	と。移住交流促進事業も88人から460人。移住者	– C			
		→定住・関係人口	の確保をめざしているのは良い。協力隊の活動。				
			来ていただいた人が伊賀市に魅力を感じ、終わっ				
			てからでもしていただく。帰ってしまうのか。空				
			き家も増えている。活用した取り組みもしていた				
			だいている、人口増につなげているのも分かる。				
126	6-5	シティプロチーショ	シティプロチーションは政策にもっていけたいの	第7回	 「シティプロモーション は一つの施策に留まらず、市全体で取り	修正	施策キーワードを「定住・関係人口」とし、基本事業①を「魅力発
120	0 0	v	か。総合政策課が意気に感じてやる事業だと思		組むものなので、6-3-2については「人口」に視点を置いた施策とし	1911.	信事業 とする。
		・ →定住・関係人口	う。コンテンツはありすぎるぐらいで、ぜいたく		て「定住・関係人口」に変更する。		11 TA 1 C 7 0 0
		ZE MMA	な悩みだ。伊賀市はこの「顔」でいくというコン		THE MINISTER OF THE PARTY OF TH		
			センサスを得るようなことを、どこかでやらない				
			といけないのではないか。				
127	6-6	住民自治・市民活動	従来からの施策を合わせた。住民自治活動も市民	第6回	自治協の部分であり、大きい意味では一緒となっている。	原案通り	
			活動であり、区別が分からない。	– C			
		1-20-1-1-					
128	7-1	広聴広報			市民の理解と信頼を得て、市政への関心と積極的な参画を促進する	原案通り	
			い。基本事業も何十年も前から言っていることだ	- A	ため、広聴と広報機能は一体的に取り組む施策と考えている。引続		
			ろう。		き事業に取り組み、それぞれの機能をより深化していきたい。		
129	7-1		指標として情報公開制度に基づく請求件数が少た	第7回	基本事業は、制度の適正な運用を図ることとしていることから、	原案通り	
1-2		72-76-72 118	くなることがいいことのように読める。そもそも		「情報公開決定等及び個人情報開示決定等に係る審査請求件数」を	MANAGE >	
			の情報発信が進んでいれば請求も少なくなると読		指標とし、これらに係る不服が生じないことを目指すものとする。		
			めなくもないが、やはり情報をどれだけ公開する		HIM COV OTOSICION OF MAN LOGIC CELIES OSCISSION		
			かの方が市民としてはわかりやすいのではない				
			か。				
			~ 0				
130	7-2	財政運営	指標として公共施設の縮減が挙げられているが、	第7回	これまでは市町村合併による縮減に目が行っていたと思う。再度検	修正	新たな指標を追加しました。
			縮減だけだと基本事業としての公有財産の有効活	- A	討させてもらう。		「複合化で機能移転した施設数」に変更
			用にはなっていない。これだけ有効活用できてい				↓
			るということがわかる指標を挙げてもらう必要が				最適化、再編により、施設の稼働率の上昇を図る。
			ある。				

No.	新番	号 施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
	31 7-5 32 7-5	情報化		- A	Society5.0も含め、地域の情報化を打ち出していかなければならないが、対応しきれておらず、市役所の情報化にとどまっている。指標も研修を受講した職員の割合となっている。 →まず、ICT活用に係る職員の理解を深め、それぞれの業務に活かすことで住民の利便性に繋げたい。	原案通り	
1,	,2 7 3	IFI TIX IC	意味がないので、この指標はどうかと思う。	– A	(ML)	//////////////////////////////////////	
1:	33 7-5	情報化		- A	現状では取り組めていない。取り残されないようにしていかないといけない。情報部局に確認し書き込めるようにしていきたい。	修正	※1 - 現状と課題の1つめを「ICTを積極的に活用した業務の効率 化や電子決裁と言った行政内部の取り組みとともに、市民サービス の向上に資する環境整備やデジタルサービス技術による住民サービ
13	34 戦略	総合戦略	人口減少を心配するなら、市として結婚ができる ような状況づくりを施策の中に反映してもらえる とよい。		課題認識はもっており、分野別計画の1-6「子育で・少子化対策」の 少子化対策事業ということで出会いのサポート、不妊治療への支援 は書いているが、サポートが弱いのは現実だと思う。	原案通り	基本事業の実施の中で対応したい

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
135	戦略	総合戦略	「アフターコロナ」を考えれば、転入者を増やせる可能性がある。若者が転入すれば、率は上がらなくても子どもの数は増えるので、そういう戦略もありうるのではないか。多文化共生をきちんとやっている伊賀をアピールし、外国人を含めた転入者を増やすような戦略的な数値を出してもよいのではないか。		田舎に住もうとシフトする人も増えるが、移住者は人口に影響を与えるまででもない。大きな企業を誘致するという政策が打てれば変わるが、3-5「産業立地」でもそこまでは書けていない。政策的な判断も必要である。	一部修正	基本目標3の「主な基本事業」に「多文化交流の促進」を加筆し、 意見にある具体的なシティプロモーションは基本事業の中で対応し たい
136	戦略	総合戦略	昔に比べると働くところはたくさんある。大阪、京都、名古屋まで1時間と言うことを売り出していくとよい。移ってきた方を大切にし、地元の人が魅力を知って、宣伝していくべき。空き家、圃場に適した土地などを把握し、会社がきたいといったら対応できるようにしてはどうか。		公的な工業団地でまとまったところはない。需要と供給がマッチしていない。 観光については自分たちがどう誇るか。主体的に取り組んでもらうことを主眼としていきたい。	原案通り	基本事業の実施の中で対応したい
137	戦略	総合戦略	伊賀市に行くと学校でこんなことをさせてもらえる、こんな先進的なことをしているということを 考えていただき、魅力づくりに投資していただき たい。	第8回		原案通り	基本事業の実施の中で対応したい
138	戦略	総合戦略	他から来てアパート住まいだった人が、子どもを 持ち地元に帰らずに伊賀市に家を建てる人がい る。伊賀市の魅力を発信し、若い人が住んでもら えるようにすべき。あまり発信されていないよう に思う。	第8回	これまで社宅に住む人へのアプローチはしてこなかった。地域へのアプローチもしていかなければと思う。	原案通り	基本事業の実施の中で対応したい
139	戦略	総合戦略	名張市は建物的な魅力があるが、伊賀市では支援センターとか深いところに魅力を感じる。しかしそれを一部の人しか知らない。伊賀市が子育てしやすいというのは一部の人しか知らない。SNSで軽い感じで見えるとよい。			原案通り	基本事業の実施の中で対応したい
140	戦略	総合戦略	子どもにやさしいまちというのは直感的に思うが、アイコンも何もない。テーマが見えるような感じに、映像化したり、バネルをつくったりしたらどうか。 ディスカッションをするなら、何ができるかコーディネートさせてくれぐらいの権限がないと何も生み出されない。ビジュアル、アイデア、寄せたら良いものが生まれてくる。			原案通り	基本事業の実施の中で対応したい

No.	新番号	施策キーワード	意見	発言回	回答	対応方向	修正内容詳細
141	戦略	総合戦略	Society5.0、デジタルトランスフォーメーションと言っている割に、ギガスクール構想の一人1台タブレットが計画に反映されていない。来年度から始まるので、ぜひ入れて欲しい。	第8回	学校教育、生涯学習はこれまでのやり方が変わるはずで、計画に書いていくべきだという指摘も出ていた。まち・ひと・しごと創生の視点で書ければと思う。		基本事業「児童生徒1人1台端末整備事業」を加筆
142	戦略	総合戦略	子育て世代は子どもの健康を気にするので、食の 安全は大切である。給食で良いものを提供してい たら魅力がある。伊賀には農業、農地がたくさん ある。お米が美味しいからと言っている人もい る。そういうものを発信していくと、来る人は来 るのではないか。		食育とか地産地消を盛り込んでいくべきで、農業では地産地消の観点、学校でも地域の食材を使った教育を。健康づくりでも食育が大切である。新たなキーワードが出たときに、縦割りでどう書いていくかが悩ましいが、それぞれの分野で、食育、おいしい食材をPRすることが大事であろう。	原案通り	基本事業の実施の中で対応したい
143	戦略	総合戦略	消防団の全国大会に参加して、伊賀市のことを聞かれても地元のPRはできないと思っている。日常的に住民としてPRできる場があれば参加していきたい。	第8回	市外に行っても自分のイベントのことしか考えていない。連携して やるべきだろう。	原案通り	基本事業の実施の中で対応したい
144	戦略	総合戦略	取り組み一覧は総合計画と連動しているという説明だったが、14ページの目標は総合計画の指標とも一致していたほうが分かりやすい。取って付けたような目標数値があるので、数を少なくしてもよいのではないか。その1期の目標のほうがよい。総合計画の目標が分かりづらい。14、15ページぐらいの目標をリンクさせたほうが分かりやすい。		それは第1期の総合戦略の指標である。 使っていた指標の中には総合計画に使っても良いものもあるかも知れない。	原案通り	それは第 I 期の総合戦略における政策パッケージの指標であり、出 典をまちづくりアンケートとしているものについては、第 3 次計画 における施策の指標として、それ以外の大半は基本事業の成果指標 として使用している。
145	戦略	総合戦略	横串の通し方については、総合戦略に分野別計画 のすべての事業をぶら下げようとしているが、そ こまでする必要はあるか。どこかに重点が置かれ るという濃淡があるはずで、横串の通し方を検討 して欲しい。		第1期の総合戦略はすべての基本事業を当てはめていたわけではない。変更も含めて検討したい。	一部修正	第2期の総合戦略を第3次計画と統合・一本化したことにより、第 3次計画のすべての施策(シート)に「まち・ひと・しごと創生の 視点」を取り入れているので、すべての基本事業を総合戦略に紐づ けたい。 重点を置く事業を「主な事業」として表記し、事業一覧においても わかるように表示したい
146	戦略	総合戦略	1つの目標に1つの課だけが取り組むのではない。ダブっている部分については積極的に出していくべき。それが政策横断的なものの糸口になる部分もある。	第8回		原案通り	基本事業の実施の中で対応したい